

ぴーきゅん編みぐるみの作り方



編み物初心者にはちょっと難しいかも…
時間がかかるから少しずつ作るといいと思うな
あなたに会えるのが楽しみ♪













用意する道具

- ・かぎ針（5～6号）
6号は糸を引っ掛けやすく編みやすい。5号は目が細かくなり、見た目がきれい。
できあがりサイズが多少変わる。（6号：高さ 約 22 cm 5号：高さ 約 20 cm）
- ・とじ針（No. 12～15）
数字が大きい方が、針穴が大きく糸が通しやすい。
- ・定規
- ・糸切はさみ
- ・ラジオペンチ
（・はさみ）

材料

- ・針金（ \varnothing 1.5 mm）
アルミ製が加工しやすい。
- ・綿 100 g
細かく干切れているタイプと、長くつながっているタイプの2種類があると作りやすい。
長いタイプを切るときは、はさみを使う。
- ・毛糸（並太）
30 g（約 49 m）玉巻の場合
赤：2玉 緑：1玉 黄：1玉
黒：1玉 灰：1玉 白：1玉
黄と緑はちょうど使い切るくらいなので、編み具合によっては足りなくなる可能性がある。

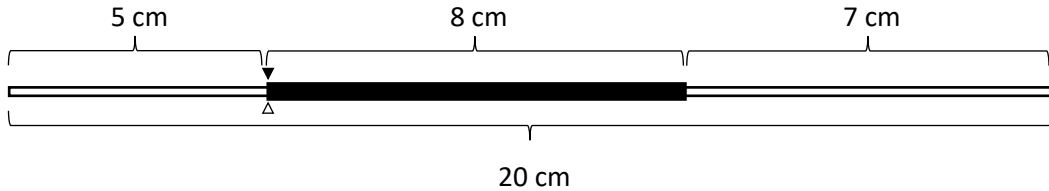
編み図の凡例

 鎖編み	 引き抜き編み	 細編み	 細編み2目編み入れ
 細編み2目1度	 輪の作り目	 糸を切らずに続けて編む	 開始  終了
 同じ段の反対側の矢印とつながる	 糸の色を変える	 半分だけ糸の色を変える	

※「半分だけ糸の色を変える」の意味は、細編みを編むときに、1回目に引き抜く糸は左下の色の毛糸で、2回目に引き抜く糸は右上の色の毛糸ということである。

腕・脚

材料:毛糸(黒)、針金(φ1.5 mm)

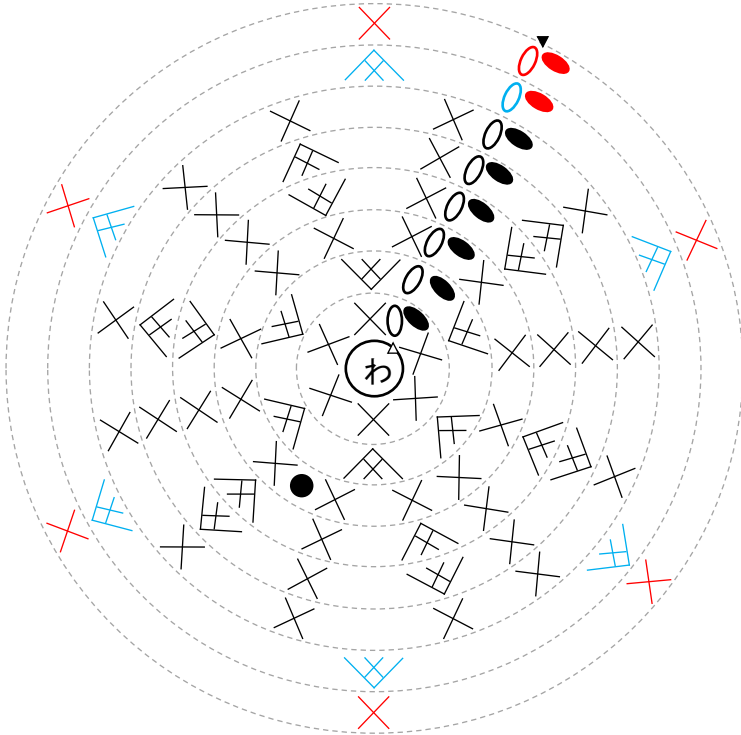


1. 針金を20 cm切り出し、端から5 cmの位置に黒の毛糸を結びつけ、8 cmの長さまで、隙間なく巻き付ける。
2. 8 cmの長さまで巻き付けたら、折り返して、針金の端から5 cmの位置まで、1. で巻き付けた毛糸の上に二重に巻き付けながら戻る。
3. 1. で結び付けた毛糸と、2. の毛糸の端を結び、糸端を5 cm程度残して切る。
4. 針金の毛糸を巻き付けていない部分を、蚊取り線香のような渦巻状に巻く(この渦巻部分が手足や胴体とつながる)。
5. 渦巻部分が毛糸の巻かれている部分に対して直角になるように、毛糸の巻かれている部分と針金部分の境目を曲げ、残していた糸端を渦巻部分に適当に巻き付ける。

手

材料:毛糸(黒)、綿

※虫眼鏡を持たせるときは先に作成して、手を作るときに●の位置に編み入れる。

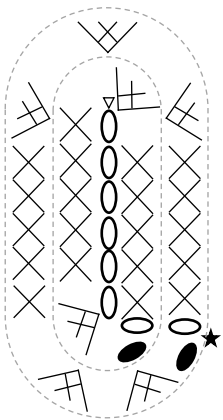


1. 輪の作り目から始めて、細編みが各段6目、12目、12目、18目、12目、12目となるように目を増減させて6段目まで編み進める。
※輪の作り目の糸端が内側にくるように、1段目の引き抜き編みをする時に気を付ける。
2. 7段目(6目)を編む前に、容積の3/4程度まで綿を詰める。
3. 7段目(編み図の水色部分)を編み、腕のパーツの針金の5 cm側を差し込み、残りの綿を詰める。
4. 7段目の引き抜き編みと8段目(編み図の赤色部分)を編み、糸端を15 cm程度残して切り、とじ針に通して、手のパーツを腕のパーツに固定するように、5~6回程度糸を通す。
※8段目を編む時は、土台の細編みをすくう際に、毛糸2本ではなく、外側の1本のみをすくうようにする。
5. 残りの糸を手のパーツの適当な場所に貫通させて、余った部分を切る。

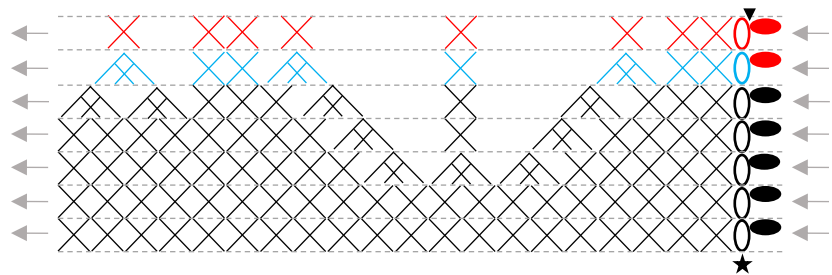
足

材料:毛糸(灰)、綿

① 靴底

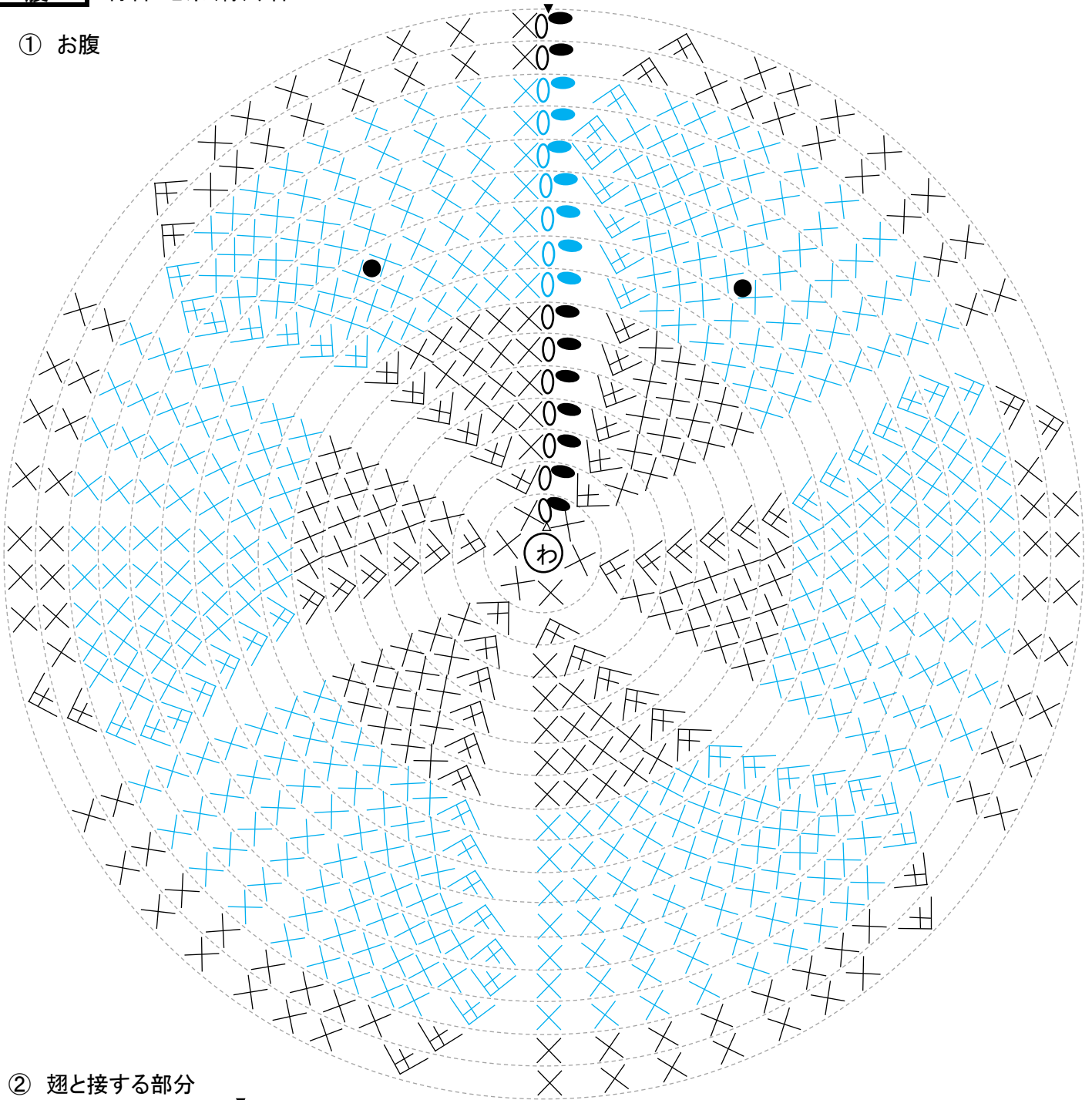


② 側面

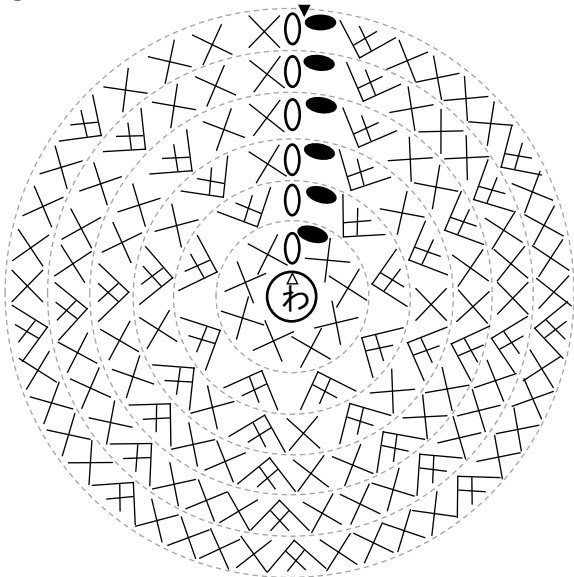


1. ①の靴底にあたる部分から作り始める。鎖編みの作り目(6目)と立ち上がりの1目を編み、細編みを14目作り目の周りを1周するように編む。
※鎖編みの鎖状の部分の半分(1目)に1目(両端は2目)を入れるように編む。
鎖編みの作り目の糸端が靴の内側(編地の裏側)になるように、鎖編みをすくうときに気を付ける。
2. 編み図の通りに2段目(20目)を編み、続けて②の靴の側面にあたる部分を編む。
3. 編み図の通りに20目、20目、17目、15目、11目と5段編み、綿を容積の3/4程度まで詰める。
※②の1段目は、土台の細編みをすくうときに、靴底部分の上側になる毛糸1本だけをすくって編む(きれいに側面が立つ)。
4. 6段目の8目(編み図の水色部分)を編み、足のパーツの針金の5 cm側を差し込み、残りの綿を詰める。
5. 6段目の引き抜き編みと7段目(編み図の赤色部分)を編み、糸端を15 cm程度残して切り、とじ針に通して、足のパーツを足のパーツに固定するように、7~8回程度糸を通す。
※手のパーツと同様に、7段目を編む時は土台の細編みをすくう際に、外側の1本のみをすくうようにする。
6. 残りの糸を足のパーツの適当な場所に貫通させて、余った部分を切る。

① お腹



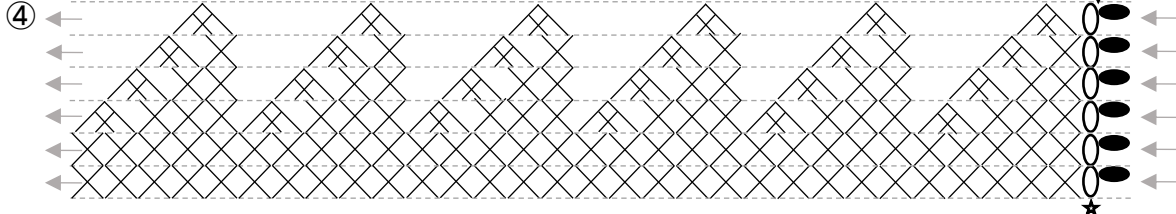
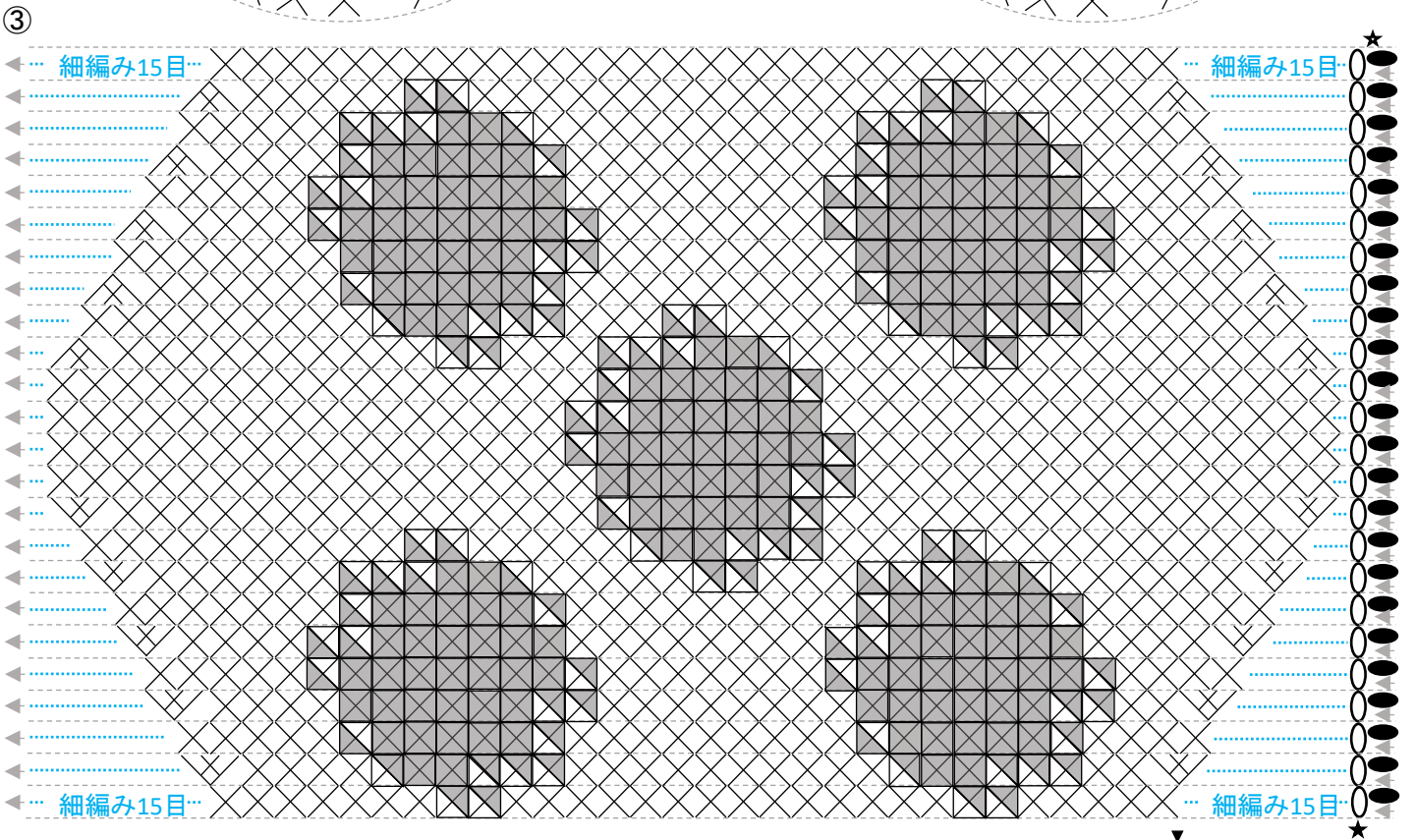
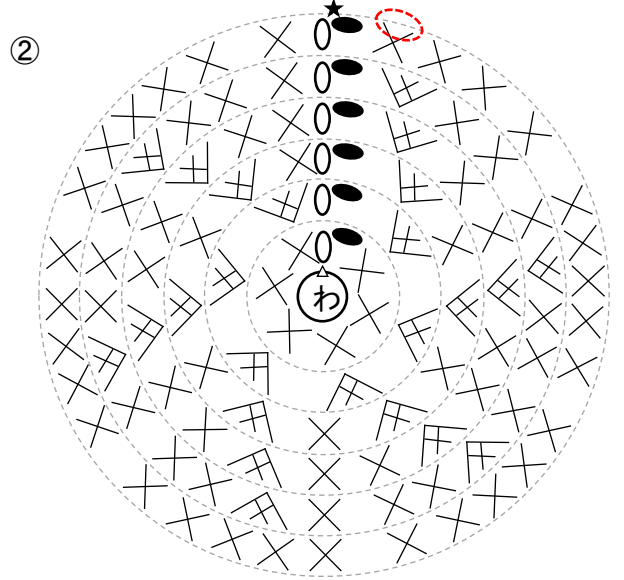
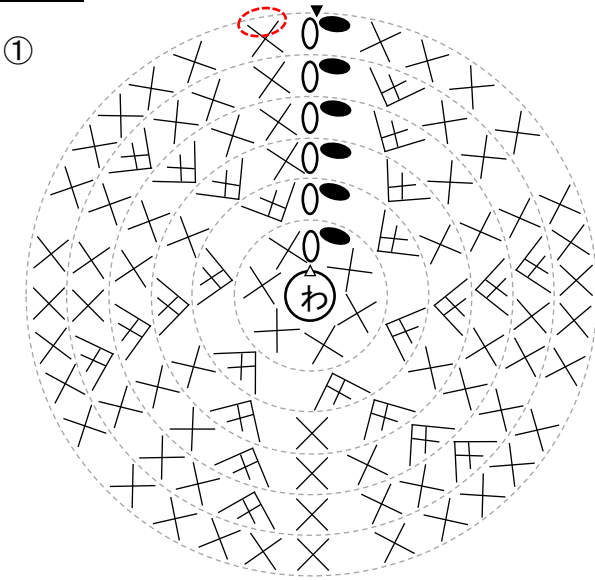
② 翅と接する部分



1. ①のお腹は輪の作り目から始めて、7段目まで6目～42目と6目ずつ増し目しながら編んでいく。
※作り目の糸端は腹のパーツの内側になるように気を付ける。
2. 8段目～21段目は48目、48目、54目、54目・・・のように増し目(減らし目)を6目ずつする段と、増減なしの段を交互に編む。(編み図の水色部分。増し目(減らし目)する段のみ図に示した。目の数は、48目～72目～60目。)
※12段目を編む時に、図の●部分に脚のパーツの針金の7 cm側を編みこむ。
3. 22段目(54目)と23段目(48目)を編み、糸端を1 m程度残して切る。
4. ②の翅と接する部分も輪の作り目から始めて、8目～48目と、8目ずつ増し目しながら6段編む。
※作り目の糸端は腹のパーツの内側になるようにし、反対の糸端は20 cm程度残して切る。
5. ①に3/4程度綿をつめる。①の残しておいた糸端にとじ針を通し、巻きはぎで②とつなげる。半分程度つなげたら、さらに綿を詰めて残りもつなぎ、糸端を5～6回適当な部分に通したあと、腹のパーツを貫通させて処理し、余った部分を切る(②の糸端も同様に処理する)。
※綿を詰めるときに、針金の渦巻部分から1 cm程度を内側に引き入れて包むようにすると付け根が安定する。

翅

材料:毛糸(赤)、毛糸(黒)、綿

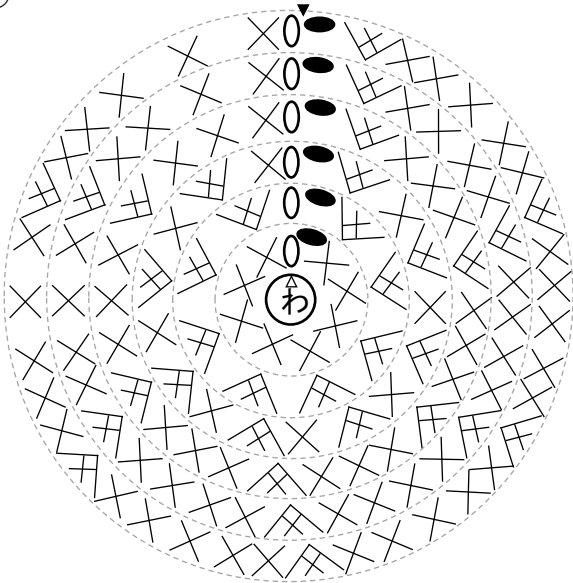


- ①を2つ作る。輪の作り目から始めて、5段目まで6目～30目と6目ずつ増し目しながら編み、6段目は増減なしで30目編む。
※作り目の糸端は翅のパーツの内側に出るように、引き抜き編みをする時気を付ける。反対側の糸端は15 cm程度残して切る。
- ②を編み図の通り編み(編み方は①と同様)、糸端は切らずに続けて③を編む。 ※③の各段の水色の点線部分は左右ともに、全て細編み15目である。したがって、1段目は全部で60目、2段目は62目、3段目は62目…というように基本的に2目増しと増減なしの段の繰り返しになる。
- ③は基本は赤色の糸で編み、灰色の網掛け部分は黒色の糸で編む。 ※□は上半分だけ黒で、▣は下半分だけ黒で編む。
- ③の1段目は②を土台として29目編み、30目目は①と②の印をつけた部分を同時にすって編む。①を土台として29目編み(印の隣の目から始める)、最後の60目目は30目目を編んだ時にすくったところ(印部分)をもう一度すくって編み、引き抜き編みでとじる。
※①と②の間に穴が開かず2つのこぶのようにつながればよい。
- ③を編み図の通り編み、黒糸は5 cm程度残して切り、赤糸は切らずに④の1段目(30目)を編み、引き抜き編みでとじる。そのまま編み図の通り減らし目しながら編み進め、糸端を60 cm程度残して切り、とじ針に通して、6段目(6目)の細編みの上部に*状に糸を通して穴をとじる。
- ②～④をつなげたパーツに綿を詰め、巻きはぎで①とつなぎ、半分くらいとじたらさらに綿を詰め、形を整えて最後までとじる。
- それぞれの糸端を5～6回適当な部分に通して、翅のパーツの適当な場所に貫通させて、余った部分を切る。

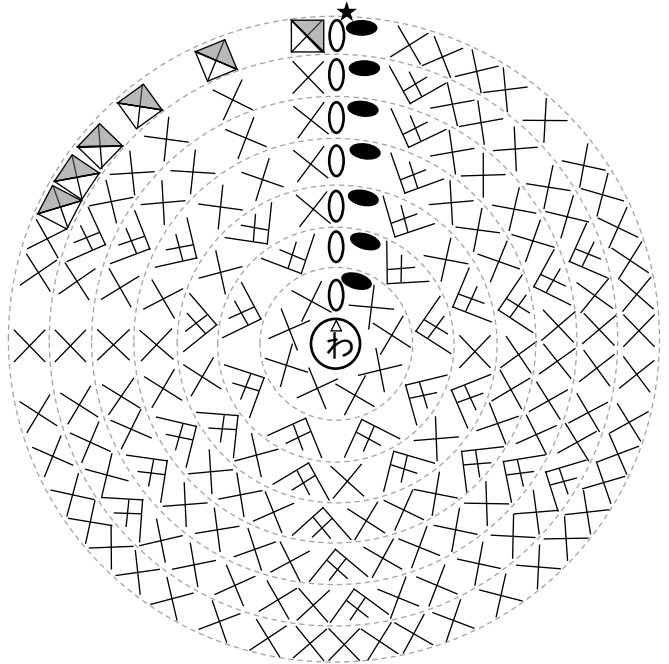
頭

材料:毛糸(黄)、毛糸(黒)、毛糸(白)、綿

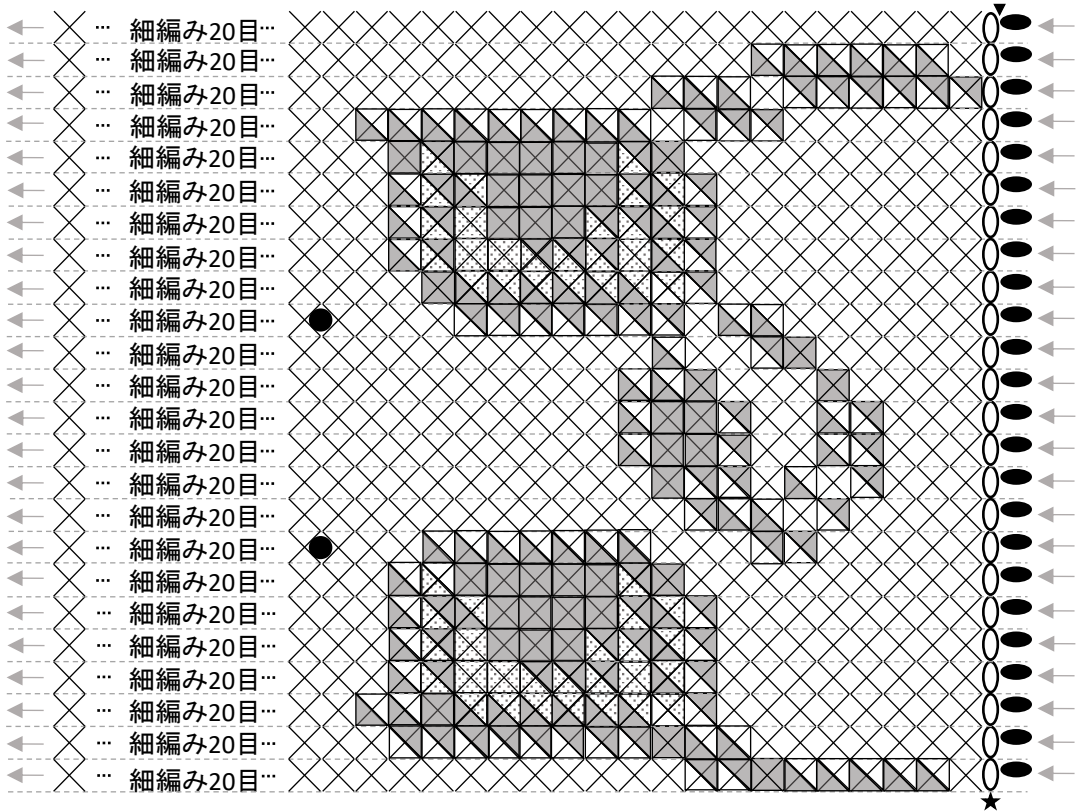
①



②



③



触角

材料:毛糸(黒)

1. ①を編む。輪の作り目から始めて、8目、16目、24目、30目、36目、42目と増し目しながら編み、糸端を20 cm程度残して切る。 ※輪の作り目の糸端は頭のパーツの内側になるように気をつける。
2. ②を輪の作り目から始めて、8目、16目、24目、30目、36目、42目、42目と増し目しながら編む。 ※基本は黄色の糸で編み、灰色の部分は黒色の糸で編む。
3. 糸を切らずに②を土台として、③の編み図の通りに編む。③は全ての段が42目で、基本は黄色の糸で編み、灰色の部分は黒色の糸、ドット柄の部分は白色の糸で編む。
4. ③の8段目と15段目を編む時に、●部分に触角のパーツを編み入れる。
5. ③が編み終わったら、糸端を80 cm程度残して切る。
6. ②と③をつなげたパーツに綿をつめ、③の糸端にとじ針を通して、①と巻きはぎでつなげる。
7. それぞれの糸端を5~6回適当な部分に通して、頭のパーツの適当な場所に貫通させて、余った部分を切る。

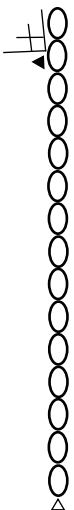
1. 触角のパーツは、鎖編み14目と立ち上がりの1目を編み、鎖編み14目目に細編みを2目編み入れる。

※14目目の鎖編みは少しゆるめに編むと、2目編み入れしやすい。

2. ▼の糸端を15 cm程度残して切り、とじ針を通して鎖編み1目ずつに編み入れながら△まで通す。

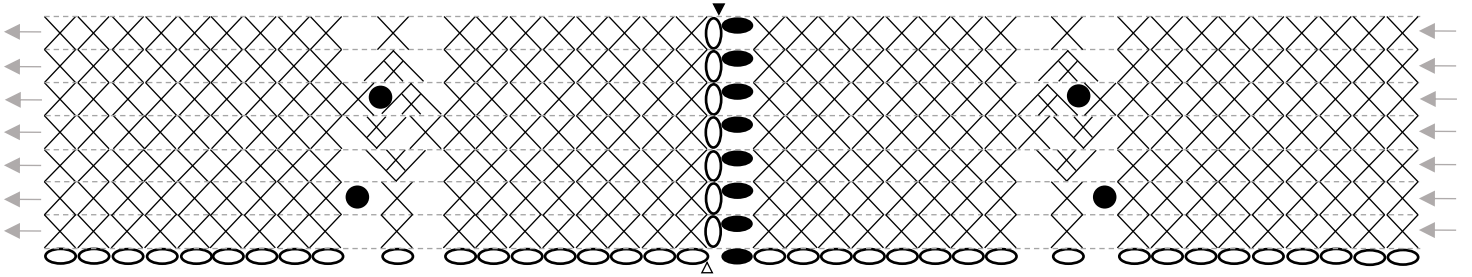
3. △の側の鎖編みの端に結び目を作り、糸端を3 cm程度残して切る。

※結び目は触角が抜けないようにするスツーパーのため、鎖編みを巻き込んで大きい結び目とする。



胸

材料:毛糸(灰)、綿



1. 鎖編み36目を編み、引き抜き編みで鎖編みをリング状につなげる。
2. 立ち上がりの目1目を編んで、鎖編みを土台に細編みを36目編み、引き抜き編みでリング状につなげる。
3. 続けて編み図の通りに、36目、38目、40目、38目、36目、36目と6段編み、糸端を50 cm程度残して切る。
※2段目と5段目を編むときに、●部分に腕のパーツの7 cm側を編みこむ。

組み立て

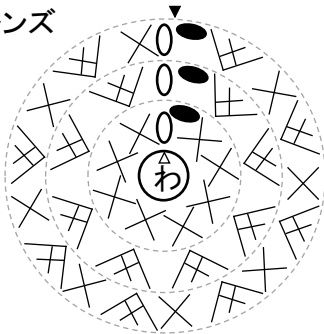
1. 50 cm程度の長さの緑色か灰色の糸をとじ針に通し、腹と胸のパーツ(短い糸端の側)を巻きはぎでとじ付ける。
2. 一周とじ付けたら、糸端同士を結び、胸のパーツの中にしまい、胸のパーツに綿を詰める。
※綿を詰めるときに、針金の渦巻部分から1 cm程度を内側に引き入れて包むようにすると付け根が安定する。
3. 胸のパーツの長い糸端(50 cm)に、とじ針を通し、頭のパーツと巻きはぎでとじ付ける。糸端はとじ針で5~6回、胸のパーツの適当な場所に通したあと、胸のパーツを貫通させて、余った部分を切る。
4. 腹のパーツの平らな面(腹の編み図の②)に翅のパーツを、赤色か緑色の糸(120 cm程度の長さ)で巻きはぎでとじ付ける。一周したら糸端同士を結び、赤色の糸でとじた場合は翅のパーツ、緑色の糸でとじた場合は腹のパーツにとじ針で5~6回、適当な場所に通したあと、そのパーツを貫通させて、余った部分を切る。
※翅のパーツのくぼんでいる部分はとじ付けにくいので、無理に全体をとじ付けず、1~2 cm程度隙間をあけても良い。

虫眼鏡

(オプション)

材料:毛糸(白)、毛糸(灰)、毛糸(黄)

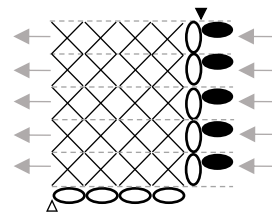
① レンズ



② 枠



③ 持ち手



1. ①のレンズのパーツを白の糸で編む。輪の作り目から始めて、8目、16目、24目と増し目しながら編み、糸端を20 cm程度残して切る。
2. 輪の作り目の糸端を適当な場所を通して、円の端まで移動させる。それぞれの糸端を円の側面(一番外側の細編みの上部)に1目ずつ通して8目程度通したら、糸端を5 mm程度残して切る。
3. ②の枠のパーツを灰色の糸で編む。このパーツは鎖編み29目である。始めの糸端は10 cm程度、終わりの糸端は30 cm程度残して切る。
4. ③の持ち手のパーツを黄色の糸で編む。糸端を20 cm程度残して鎖編み4目を編み、立ち上がりの1目を編んで細編み4目を編む。
5. 引き抜き編みで、太目の棒状になるように閉じ、同様にあと4段編み、糸端を10 cm程度残して切る。
6. ②の長い糸端にとじ針を通して、①の外側を②が困うように1目ずつつなげる。この時、②の端2目ずつ(編み図の赤色部分)はとじ付けず、①を1周したら最後に赤色部分を合わせて閉じる。
※①の糸端は①と②の間に挟み込んで処理する。
7. ②の糸端を2本ともとじ針に通し、③の土台の鎖編み側(広がるようになっていないはず)に差し込み反対側まで通す。
8. ③の20 cmの糸端をとじ針に通して、②を固定するように5~6回適当に通し、最後に③の内側に針を通して反対側に引き抜く。もう一方の糸端と結び、全ての糸の端を2 cm程度残して切る。
9. 手のパーツを作るときに、手のパーツの編み図の●部分に持ち手の下2段を腕・脚・触角のパーツを付けるときと同様に編み入れる。
※糸端は手のパーツの内部に収める。